

# 授業における効果的な新聞活用について

兵庫県佐用郡佐用町・宍粟市三土中学校事務組合立三土中学校 教諭 鳥越 俊

## 1 はじめに

本校は男子20名、女子21名の計41名の小規模校であり、兵庫県佐用郡佐用町中三河にある公立中学校である。

明るく素直で毎日の授業や各行事にも意欲的、積極的に取り組んでいる。

今年度は初めて NIE 実践指定校として、取組を行った。初年度ということもあり、担当としても暗中模索の状態が取組がスタートした。しかし、新聞の魅力、新聞に触れる子どもの表情などを見ていると新聞を使った活動への大きな期待や可能性を感じた。

## 2 重点目標の設定

本年度は、二つのことを重点目標として設定した。一つは「生徒にとって新聞をより身近なものにする」という目標である。家庭の暮らしも昔とは変化しており、インターネットで情報を得る家も増え、家庭によっては新聞を取っていないところもある。実際、新聞を「情報を得るためのメディア」ととらえている生徒は少なかった。そういった状況の中で、生徒にとって新聞のメディアとしての利点を知り、興味関心を持って今後の活動に取り組めるように実践を行うことにした。

もう一つは「創意工夫しながら、教師自身の教育活動における新聞活用能力を高める」という目標である。NIE 実践指定校となり、生徒の興味関心を高めることにあわせて、教師自身の新聞を活用した実践の内容を深めていく必要がある。そういった試みの中で教師自らが色々と創意工夫をすることで、NIE 活動もよりよい実践となっていく。NIE 実践指定校としても教師が協力し、互いに高めあいながら実践を深めたいと思い、この目標を設定した。

## 3 実践の概要

### I 生徒にとって新聞をより身近なものとするための取組について

#### (a) ひょうご新聞感想文コンクールへの応募

まずは一度じっくり新聞をめくり、記事を探し、その記事を読んで、自分はどう思ったかを書かせる活動をさせようと考えた。その際、紹介いただいた神戸新聞社主催の標記コンクールの存在を知り、応募することにした。小規模校ということで、全学年を対象に感想文を書かせた。

時期については、長期休業を利用し、課題として新聞感想文の取組を行った。そのため、長期休業前には国語科で全学年を対象に読書感想文の書き方の授業を行った。その際に新聞感想文の書き方についても併せて指導した。新聞を広げてつなげてみるとどれぐらいの長さになるだろうかと、生徒に問いかけ、関心を持たせた。実際に行ってみると教室の端から端までほどの長さになり、その文面の中には、偶然本校生徒の氏名が掲載されており（書道作品の入選に関しての記事）、より一層、新聞に対して興味関心を持つことが出来た。

提出された感想文を見てみると、生徒達が選んだ記事はこの夏のオリンピックに関してのものが多かった。自分の所属している部活動種目の選手の活躍や、金メダルを獲得した選手などに注目して感想を書いていた。

中には、ハワイ諸島の原爆実験に関する記事やヒッグス粒子についての記事、また自分たちの地元の中学生によるいじめ撲滅宣言の採択の記事など、地域ページを選んだ生徒もいた。

このような活動を通して、生徒は社会の動きにアンテナを高くして生活することや、自分たちの地域の行事や取組に興味を持って過ごすことの大切さに気づけた。何より、今回の取組で、「学校賞」をいただいたことで、生徒たちも自信を持

つことができた。NIE活動に、より一層前向きに取り組めるようになった。

### (b) 六紙の新聞の図書室配置

活字離れが叫ばれる昨今、本校では週一回の「読書タイム」を設け、読書活動を推進している。生徒の図書室の利用の頻度を高めるとともに、生徒一人ひとりの読書量の増加を目指し、生徒会の学習図書部を中心に取り組んでいる。そのことに併せて、NIEの活動として、全校生徒が気軽に新聞を読めるように、図書室に六紙の新聞を設置した。「今まで新聞はテレビ欄しか見ていませんでした。」と言っていた生徒達が昼休みになると、図書室に来ては新聞をめくるようになり、学年の枠を越えて数人で一つの新聞を囲みながら、意見を交わしていた。新聞には見開きページに数多くの情報が掲載されており、「こんなことも書いてあるんや」というような声や「へー、知らなかった。」などの声をよく耳にした。実践指定校とし4ヶ月間の無料講読をさせていただき、新聞がより身近なものとなり、生徒達は新聞に対するイメージが変化した様子である。男子生徒で「新聞はいろんなことが、同じページに載っていておもしろい」や「同じページを何人かで見られるから便利だ」といった生徒がいたことから認識の変化が伺える。全学年の生徒が一堂に会してよいコミュニケーションの行える空間として機能したことと、広げた紙面を数名で簡単に、また同時に閲覧が出来ることにより新聞に親しむだけでなく、生徒同士の幅広いコミュニケーションができるようになった。

### (c) 新聞記者派遣事業の実施

本年度11月6日(火)にNIE実践活動の一環として、新聞記者派遣講演会(講師は神戸新聞社の小西隆久氏)を実施した。

生徒に新聞に興味を持たせるということをお話をしていただいた。概要は新聞ができるまでの過程、新聞の構成、取材と編集について、紙面によって内容が大きく変化することについて、一番心に残った取材などについて講演をしていただいた。共に聞いていた教師にとっても

非常に興味深い話をしてくださった。

中でもボクシングの長谷川穂積選手の記事を例に社会面、スポーツ面で記事の内容が異なることや小西記者にとって一番印象に残ったタンクローリーの事故現場での取材のことは生徒たちも強い関心を抱いて聞いていた。



(小西隆久氏による講演会)

#### 《生徒の感想文より》

私は新聞を作ってくださいる人のことを正直考えたことはありませんでした。でも、今日のお話を聞いてもっと新聞を読もうと思いました。記者の方の仕事の大変さやうれしさも知ることができました。実際の現場に行ったり、何度断られても取材を続けたりしてきつと苦しいことがたくさんあったと思います。でも、記者だからこそ知ることができるその人達のドラマがあるとおっしゃっていました。それを私たちに伝えるのはとても難しいと思いました。新聞は、文字の大きさの違いによって一番伝えたいことや知って欲しいことなどが違うということを知りました。いつも大きいところしか読まないの、小さい文字も読むようにしたいです。とても貴重な体験ができてうれしかったです。

新聞記者は優勝のすばらしい瞬間も、事故のあった悲しい現場も実際に目の前で見て記事にしているということでした。うれしい気持ちも悲しい気持ちも記事を通して、私たちに届けてくれるのだなあと感じました。そして、新聞の記事の作り方や具体的な配置なども教えてもらい、記者の仕事というのはおもしろいな、と思いました。

また、テレビやインターネットとは違い、新聞

では特に目立たせたい所などをわかるように書いてあることも知って、新聞っておもしろいなど感じました。

## II 教師自身が創意工夫しながら、教育活動における新聞活用能力を高めるための取組について

### (a) 授業におけるNIE活動の実施

上記の目標の設定のように教師自身のNIE活動への造詣を深める試みとして、教科毎に新聞を使った実践に取り組んだ。授業の中で新聞を活用する場面を各教科担当の教師で試行錯誤しながらの実践であった。紙面の都合上、数学、理科、美術、家庭科の実践記録を掲載する。

#### 【教科 数学】

■単元名 3年 第8章 標本調査

■ねらい

・全数調査と標本調査の違いを理解し、標本調査を利用して母集団の状況を推定できる。

■新聞活用のポイント

・広告面が少なく紙面に活字が平均して使用されているページを使用。

■実践内容

学習活動

・新聞紙1ページに使用されている文字の中でひらがなが何文字くらい使用されているか推測しよう。

・実験結果 全数調査 1706文字  
標本調査 1780文字

■実践の成果

・身近にある新聞紙を使用することで、大変な労力にもかかわらず、関心を持って作業を続けることができた。実践自体は中学校1年生で取り扱う比例と反比例の内容であるが、全てを数え上げ調べさせることで全数調査を、また、部分毎に調べさせ、全体の数を推測させることで、標本調査の意味を理解させようと試みた。

・新聞記事自体には関係がないということと、広告のページの多いところや、数字の多いと

ころのページがあり、新聞紙全体の様子までは今回のことから、推測できない。しかし、全数調査の労力のかかること、また、部分的な調査から全体がある程度把握できるという標本調査の利点は感じ取れていたように思う。

#### 【教科 理科】

■単元名 2年

・血液はどのようなはたらきをしているのか

■ねらい

・動物の体には心臓を中心とする循環系があり、栄養分や酸素、不要な物質を運ぶはたらきをしていることを、血流の観察などをもとに理解させる。

■新聞活用のポイント

・血液の成分を学習した後、現在の医療現場で血液がどのような役割をしているかを新聞記事から読みとる。

■学習活動

第1次 メダカの尾びれの観察で、血管とその中を流れる赤血球のようすなどを確認する。

第2次 血液成分について理解する。

第3次 心臓のはたらきと血液循環について理解する。(新聞活用)

第4次 不要物の排出と腎臓のはたらきについて理解する。

■実践の成果と課題

〈成果〉

血液が血友病ややけど、感染症の治療に使う血液製剤として利用されていることが分かった。また、血液製剤には赤血球、白血球、血小板をふくむ輸血用血液製剤と血漿を成分とする血漿分画製剤がある事実も知ることができた。

遺伝子組み換えが血液製剤にも利用されており、病気治療の問題にも関心を向けることができた。

新聞は最近の話題を提供してくれ、身近に起こっている問題について興味関心を持たせることができる。

〈課題〉

科学分野の記事は専門的な単語や言葉遣いがあり、理解するのに難しい箇所もある。指導する側の準備が必要である。

### 【教科 美術】

■単元名 1年 実物大の自分をつくろう

■ねらい

- ・実物大の自分を見つめ、自分らしさや友だちの個性を見つける。
- ・新聞に興味関心を持つ。

■新聞活用のポイント

- ・新聞紙という身近な素材を使うことで、伸び伸びと作品作りに取り組みさせる。
- ・新聞を大きく広げられる広い場所で作業をする。

■学習活動

①新聞紙をつなげ、その上に寝転んでポーズを



とり、友だちに自分の形をなぞってもらう。



②自分の形を切り抜く。

③壁面に貼り付け、鑑賞する。

④実物大の自分を作って鑑賞した感想を書く。

■実践の成果と課題

〈成果〉

- ・身近な新聞を使って、手軽に伸び伸びと作品作りに取り組むことができた。
- ・新聞紙を使っての作品作り、途中で新聞を見

たり、読んだりする生徒がいた。新聞に対する興味関心を持たせることができた。

〈課題〉

- ・自分の関心のある新聞の内容に関する作品作りができるよう、さらに発展させたい。

### 【教科 家庭科】

■単元名 1年 食品の選択と保存

■ねらい

- ・食品加工の目的と食品保存の原理が理解できるようにさせる。

■新聞活用のポイント

- ・新聞記事を活用し、近年多発している食品に関する事件を整理し、情報を交換して学習を深めさせる。

■学習活動

各自が最近の食に関する新聞記事を読み、ノートに要約し、1分間スピーチの形で発表することで、情報を共有し合い食に対する理解を深める。

■実践の成果と課題

〈成果〉

各自で最近の新聞記事を読んで記事を探すことで食品に関する意識が高まったように思う。そして、他の生徒の発表を聞くことでいろいろな問題や話題を共有できた。

〈課題〉

新聞記事を読みこなすのに時間がかかることもあり、国語辞典で意味などを調べるのに時間がかかった。新聞の活字になれることも大切だと思った。

4 まとめ

今年度から初めての取組として試行錯誤、思案しながらのNIE活動であった。始めに書いたとおり、子どもの表情がいきいきとし始めた。あらためて、実践を重ねることで、新聞の魅力に気付かされるとともに NIE の取組の成果を感じている。来年度はさらに授業での新聞活用を推進するとともに、授業だけでなく生徒の情報活用力を培う活動を展開していきたい。